

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100453		
法人名	社会福祉法人真光会		
事業所名	グループホーム三和苑		
所在地	熊本市西區城山代3丁目6番2号		
自己評価作成日	令和4年 8月 13日	評価結果市町村報告日	令和4年11月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和4年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎朝、三和苑の3つのケア理念を復唱し、その理念を大切に丁寧なケアを心がけている。お一人お一人の出来る力を尊重し、日常生活の中でどうすればその力が活かせるか、様々な工夫をしながら受け身的な生活にならなように努めている。目指すは「普通の生活が普通に送れること」で、その実現の為に“待つ介護”を念頭に置いてケアしている。今年度の事業所の目標は「ケアデザイン」～細かなところこそ丁寧なケアを～で、ご利用者の身だしなみ、居室環境、声の掛け方、ケアの質など、直接介護以外の面でも手を抜かず質の高いケアを提供出来るようになることを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の中で、入居者の「今」を大切に、日々「普通」の「生活」を送るため、「家族」と共に入居者を支えるケアが実践されています。職員は法人理念・事業所理念・事業所目標に繋がる目標を持ち、職員研修も充実し、育成にも力を入れています。就業環境にも配慮され、年2回の3連休取得等、働きやすい職場作りも継続されています。コロナ禍である中でも、「できない」ではなく「できること」を検討し、日々の生活の中で季節を感じることでできる散歩や移動販売車での買い物等が「普通」に続けられています。担当者会議にも出来るだけ家族の参加も頂き、事業所・職員・家族皆で入所者を支える姿が見えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所のケア理念①一人一人の声に耳を傾けます②一人一人に寄り添い安心出来る存在になります③一人一人の出来る力を大切に尊重しますを毎朝復唱することで、ケアの方向性を全員で共有し質の向上に努めている。	利用者との和・地域との和・職員の和の「三つの和」からなる法人理念を基本とし事業所理念を加えて掲げており、職員会議等で共有し実践につなげている。事業所パンフレットへも掲載し、地域や入居者等にも理念を基にした取組みを示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍である為、地域行事などが中止になり、地域との交流はなかなか出来ていない。	地域とのつながり作りは法人理念に謳われており、全体で取り組んでいる。コロナ禍により以前のような入居者と地域の交流は少なくなったが、ホームの目の前や一歩外に出るとお店等があり、地域での日常生活を感じることができる。自治会長等、地域からの来訪・交流も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ向けて発信する機会がなく、活かすことは出来ていない。運営推進に会議においては認知症ケアに関する内容を毎回テーマに取り上げて報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、認知症ケアに関することやご利用者に見られる症状、それに対するケア方法、実践してみてどうだったかを報告している。また、会議において得られたご意見や感想はケアに活かすようにしている。	例年、運営推進会議では、認知症に関する勉強会等も行い、地域への啓発も行ってきた。コロナ禍により書面開催も多くなったが、参加者から事業所への意見を得る仕組みができており、意見は日頃のケアへ繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアの取り組みなどを報告する機会はないが、事故発生時には速やかに報告したり、なぜ、その事故が発生したのか事例検討をして再発防止に努めている。	従来から日頃の取組み等の報告・連絡・相談を行い関係構築を行っていたが、コロナ禍でもあるため、感染症対策等に関する対応が中心であった。運営推進会議には地域包括支援センターの参加があり、意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	4か月ごとに身体拘束廃止委員会を開催し、なぜ身体拘束がいけないのかを職員皆で学び、身体的な拘束のみならず、スピーチロック、ドラッグロックも行わない様全員で取り組んでいる。	法人全体で身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。身体拘束廃止委員会の開催に加え、事業所でも3ヶ月に一度、身体拘束に該当する事例がないかの検証や高齢者虐待についての学習会を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会の際に、高齢者虐待防止についても学習会を行い、どのような行為が虐待に該当するのか、どうすれば未然に防ぐことができるのかを共通理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者に成年後見制度を必要と判断した方がいっしょに、司法書士に相談し、本人も踏まえて話し合いを行った。結果、成年後見人を立てるのにこととなり、弁護士が介入するに至った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、必ず身元引受人の方に契約内容、重要事項説明書、重度化の指針、個人情報保護の目的についてわかりやすく説明し、署名・捺印にて同意いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の要望はその都度家族に電話にてつたえている。また、個々の要望については随時聞き取り、家族の協力のもとサービスに反映するようにしている。今後、サービス担当者会議等でニーズをより具体化していく。	日頃から職員は入居者に寄り添うケアを行っており、日常的な言葉に耳を傾けている。家族へは入居者に関する報告も電話等で行っており、意見を得る機会にもなっている。介護計画における担当者会議は、コロナ禍であっても家族に事業所へ出向いて頂き、直接意見を交わす場を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年、事業所の事業計画を職員全員で立案し、サービスの向上につながるように努めている。また、それに基づき、研究テーマを決めて取り組み、結果を年度末に法人内で発表している。	毎月事業所会議を開催し、職員の意見を表す機会を設けている。日頃から職員は管理者へ意見や提案を伝えることができる環境でもあり、職員育成にも力を入れ、個人面談等も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働意欲が低下しないよう、公平な勤務表を作成し、残業ゼロをスローガンに負担の軽減に努めている。また、年2回3連休を取得し、プライベートの充実にも力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人内研修が行われ、様々なテーマで学ぶ機会が設けられている。また、月1回の事業所会議においても、認知症学習会や接遇力の向上などテーマを決めて学び、日々のケアに活かせるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の基盤である特養への応援勤務を毎月10日前後設け、他の部署がどのようなケアを行っているのか学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する際には必ずサービス担当者会議を開催し、どのようなケアを行うのかご家族の意見も反映するようにしている。また、何か特変があれば速やかに報告し、信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの導入時には、ご本人、ご家族が何を望まれているかをヒアリングし、事業所として出来ることを提案し、出来る限り意思に沿うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議を開催し、その時の思いを可視化し、必要とするサービスは何かを一緒に考え、具体案を提案し実施している。また、実施するのみだけでなく、モニタリングを行い、日々変化するニーズに応えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共にある暮らしを大切に、個々の出来る力が発揮出来る機会を設けている。具体的には洗濯物干し、たたみ、食後の片付け、食器拭き、洗濯物の取り込みなどである。役割意識をもって取り組まれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃からご家族との連携を密にし、ご本人に関する情報は共有するようにしている。また、県外でサービス担当者会議に参加が難しいご家族には、郵送にて意思確認を行い、ご本人に対するサービスを一緒に考えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でなかなか外部の方達との交流が出来ず、馴染みの人や場所との繋がりは出来ていない。しかし、社会参加の一環として移動スーパーに来て頂き、自分で買いたい物を選んでお金を払うという取り組みを行っている。	例年、地域行事への参加や隣接する法人や事業所への地域からの訪問等の取組みがあるが、近年、感染症対策により入居者と馴染みの方々との交流は難しいものであった。移動販売車の来訪を受入れる等、新たな馴染みの関係作りに取り組んだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食後の片付けで食器拭きを行っていただくが、全員の方が関わる事が出来るよう担当制で行っていただいたり、洗濯物たたみも協力して行っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からのご相談には随時対応するようになっている。ここ2年の間では、そのような事例は無かった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース検討会を定期的にかけて、ご本人の思いや予測される要望、意向を検討し、ケアプランに反映させ、サービスにつなげるように努めている。	現状、思いを表すことができる入居者おられ、職員と入居者の日常会話や入居者からの訴え等で把握できる場面も多い。日々の食事作りも好みを聞きながら献立を決めている。移動販売車で買い物や生活の中で、入居者の「選択」を大切にしたいケアを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス担当者会議にて、ご本人やご家族からこれまでの生活歴、嗜好、楽しみなどを聞き取り、サービスの中に取り入れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人のペースに合わせて生活していただいている。個々の身体能力に応じて家事活動に参加していただき、その力が低下しないような支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議の前に、スタッフだけでケース検討会を開き、真のニーズは何かを検証し、その意見を持ってご家族を交えてのサービス担当者会議を開催し、ケアプランに反映するようにしている。	入居者の生活の様子を職員間で共有し、職員会議で検討会を行っている。コロナ禍であっても担当者会議にはできるだけ家族に来所頂き、家族と共に入居者のよりよい生活のために意見を出し合い計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、生活の様子や言動、ケアをしてどうだったかなど細かくケース記録に記載し、スタッフ全員で情報共有するようにしている。その記録を持って、モニタリングを行い、必要に応じて介護計画を更新している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化するご利用者の要望に対しては、なるべくその時に対応するようにしている。また、施設内だけのサービスでは対応が難しい事案に対しては、ご家族の協力を得ながら、ご利用者第一のケアに努めている。		

グループホーム 三和苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流が難しいのが現状であるが、近隣の公園に積極的に出かけ、地域住民の方と挨拶を交わしたり、短い会話を交わすなどの交流は出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医をどこの医療機関にされるか希望を伺い、それを尊重するようにしている。協力医療機関が隣接していることから、何か異常があれば速やかに先生が往診して下さい。	入居前からのかかりつけ医の受診を支援するが、現状、協力医を希望されるケースが殆どである。協力医からは毎日のように食事の様子等配慮があり、普段と違う様子が見られる際にはすぐ相談できる環境である。そのほか週1回訪問看護による体調確認・相談もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護では、一週間の中での気づきや変化を報告し、医療面でのサポートをしていただいている。必要に応じてかかりつけ医に相談し適切な治療が出来るよう医療機関を紹介していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は入院先のソーシャルワーカーと連携し、なるべく3ヶ月以内での退院が出来るよう調整を図っている。今はコロナ禍で面会は出来ないが、それ以前は週に1度は面会に行き、状態の把握に努めた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針を説明し、終末期にはグループホームでは対応が出来ないことを伝え、ご本人及びご家族のご希望に沿った支援の方法を提案し、次の生活の場を確保することを約束している。	終末期を前提とした積極的な受入れは行っておらず、重度化や終末期となった際には家族や医師等関係機関と共に次の生活の場の確保に向けた支援を行っている。事業所の指針は入居時契約の際伝え、了承を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度は救急法について学ぶ機会と実践訓練する機会を設け、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や自然災害に備えて、火災訓練は年2回、自然災害訓練は年1回必ず実施し、そこで得られた反省や気づきを記録に残し、有事に備えている。また、避難確保計画の情報を更新したり、必要物品は定期的に入れ替えをしている。	年2回の火災訓練の他、水害を想定し、年1回入居者も参加して隣接する事業所への避難訓練を行っている。「災害の日」を定め、非常食の期限・在庫確認も兼ねたカセットコンロを使用しての保存食提供も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お1人ずつ声掛けの仕方や対応法を変え、その方に合ったケアが出来るように努めている。耳の遠い方や、あまり手を出さない方が良い方、細かく手を掛けることを望まれる方、それぞれのニーズに対応するようにしている。	職員は入居者それぞれへ寄り添い、それぞれの対応を行っている。選択の場面作りも大切にしており、声掛けも入居者に合わせ行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	週に1回ではあるが、移動スーパーが来た日にはお1人ずつ買いたい物を自分で選んでいただき、お昼ご飯に提供している。好きな物を自分で選んで買うという行為は楽しみとなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事もご利用者の思いを大切にし、出来る所はご自分で行っていただき、待つ介護に努めている。ご自分で出来る力を発揮されることで自信にもつながるのではないかと考える。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服は出来る方にはご自分で用意して着ていただいている。また、散髪もご本人の意思を大切にして、どれ位切るのかを決めていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に数回ではあるが、ご利用者の方が主体となって食事やおやつ作りをしていただいている。また、昼食後の片付けは当番制にてお手伝いいただいている。	事業所において職員手作りの食事を提供している。入居者の希望も日々尋ねる姿もあり、移動販売車で好みの総菜やパンを選ぶ機会もある。時にはおやつを皆で作ったりと、食事は生活である支援の様子がうかがえる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の嗜好を考慮した水分提供を行っている。入所前の習慣も大切に継続して摂取出来るよう、ご家族の協力のもと、提供している。また、食事と水分の摂取量は毎食数字化して全員で把握出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入所時に訪問歯科にて口腔内の検診を行っていただき、そこで指導されたことを念頭に入れつつ毎食後の口腔ケアを行っている。自力で出来る方にも付き添い、磨き残しがないよう声掛けをしている。口腔検診は定期的に行っていただいている。		

グループホーム 三和苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人ずつの排泄パターンや方法を把握し、個々に合った排泄介助を行っている。日中、夜間共にトイレで気持ち良く排泄が出来るよう排泄間隔にも気をつけている。	入居者それぞれへの対応で、出来るだけトイレでの排泄の継続に取り組んでおり、夜間も基本的にトイレへの誘導等支援を行っている。支援方法について意思疎通が難しい事例が発生した際には職員ミーティングで対応を検討・共有し、取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食物繊維を摂っていただいたり、水分不足からの便秘にならないようにしている。どうしても便秘が続くような場合はかかりつけ医に相談のもと、薬の服用もしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	どうしても日中の入浴になってしまい、「こんなに明るいうちから？」との声も聞かれるが夜間入浴の対応は人員配置上出来てない。その代わりに、お一人ずつゆっくりと入っていただけよう、その方のペースに合わせた入浴を心がけている。	週2回以上、現在は基本的に1日おきの入浴を支援している。季節ごとに変わり湯を楽しみ、体調を考慮しながらゆったりと湯船で過ごしてもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に1日どう過ごされるかは自由にしていただいております。夜間寝不足だった方は日中適度に休息していただいております。また、夜間は良く休まれるよう、お一人ずつ入床の時間を変え、眠れるまでテレビを点けたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報は最新の物に更新し、全スタッフが共有出来るようにしている。特に、血圧や眠前薬の取り扱いには注意し、血圧の変動など気になることはすぐにかかりつけ医に相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動の中で、出来る事を一緒に見つけ、得意だった洗濯物たたみや花のお世話、食器拭きやテーブル拭きなどを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍以前は月に1回は外出行事を設けていたが、今は出来ていないのが現状である。天気の良い日には近くの公園に散歩に出かけるようにしている。その際に地域住民の方から声を掛けていただくこともある。	入居者皆での行事による外出は難しい状況が続いているが、花見を兼ねたドライブや隣接する公園や敷地内の散歩等は日常的に行っている。入所者が種まきから楽しむ鉢植えに水やりをする等、外気を感じる機会も多い。	

グループホーム 三和苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の管理は職員でおこなっているが、週に1度の移動スーパー来苑時には、お一人ずつ自分の買いたい物を選んで、お金も自分で払っていただく機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは無いが、電話は携帯を所持しておられる方が3名おられ、自由に話をしていただいている。また、苑の電話にもかかってきた場合はご本人に代わり、直接会話が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節の壁画を皆さんで作っていただき、飾ることで季節感を感じていただけるようにしている。また、玄関周りがスッキリしていないとのこと指摘を受け、すぐに改善に努めた。	共有スペースであるリビングは陽当たりも良く、家庭的であたたかな雰囲気であり、入居者それぞれがテレビを見たり思い思いに過ごすことができる。施設長・職員の意見も取入れ、すっきりとした空間で入所者との触れ合いの姿がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	どこで過ごされるかは自由であるので、所在の確認のみ怠らない様にし、好きなようにしていただいている。一人を好まれる方には自室でくつろいでいただき、食事も自室まで運んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込まれるものは、ご本人及びご家族と話し合いを行い、持ち込める範囲内で自宅から馴染みのある家具類を持って来ていただいている。中には仏壇を持って来ておられる方もいらっしゃり、なるべく自宅に近い環境を整えている。	それぞれに手洗いが設置された居室は、使い慣れた筆筒や遠く離れた家族の写真等、家族を感じる事のできる部屋作りがなされている。居室によっては周辺の生活の様子や敷地内の花木により日々の生活・季節も感じることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間、トイレの場所がわかられない方がいらっしゃるのので、案内札を用意し、トイレまでスムーズに行けるようにしている。また、席が分かれられない方には椅子に名前を書いてどこに座ればいいのか分かるようにしている。		